



にゅーすれたーふじやま・長泉 浮島が原自然公園



2011. 11

パナソニックエイジフリー介護チェーン

富士市の「浮島が原自然公園」をご存知でしょうか？かつては「浮島沼」と呼ばれた湿原で昭和30年代まで「湿田農耕」が続けられ、お百姓さんは腰や胸まで浸かって田植えをしたそうです。そこには環境省のレッドデータブック（絶滅のおそれがある野生生物について記載したデータブック）や静岡県版データブックに記載されている貴重な植物が分布しています。この湿原の貴重な植物群落と自然風景を保全し、身近な自然を観察できる自然公園として10年ほど前から整備されるようになったそうです。私は10月26日に見学しました。富士自然観察の会の山田高先生（小学校の教員をされ、赴任先の学校で「こどもエコクラブ」を次々と立ち上げ、退職後も指導にあたっていらっしゃる）に案内していただきました。台風によってオギやススキはかなり倒れ、デッキの両サイドはかなり荒れていました。懐かしいアシの風景にも出会い珍しい植物も見ることができました。デッキの歩道も整備されているのでちょうどよい散歩コースになるでしょう。健康と知識欲を満たすため皆さんも一度行かれたらいかがでしょうか。無料駐車場も完備されています。（富士市中里2553番地・お問い合わせは富士市役所 都市整備課 みどりの課 0545-55-2795）



絵本の中の料理をつくろう！！

NPO法人「楽しいことやら座」では11月5日（土）かぐや姫工房（大淵榊望月庭園）を会場に今年で4回目になる恒例のイベント“絵本の中の料理をつくろう”を行いました。今年も昨年と同じみのる幼稚園の年長組27名、快明堂のご利用者さん3名をお招きし、高・幼で楽しみました。テーマは「さつま芋」。 さつま芋ご飯 茶巾しぼり・さつま芋の味噌汁等をつくりました。園内に置かれた船（もとは海を走るバーベキュー船）の上での食事は子供たちにとって最高の場所ではなかったかと思えます。



楽しいことやら座の長津理事が『さつまのおいも』佐々木理事が『おいもほり』の絵本を読み聞かせます。

いよいよ、料理の開始。お芋のご飯はあらかじめスタッフが炊き上げ紙の皿によそいます。お芋の茶巾絞りはラップに盛って園児たちが紅葉のような手で意外にも器用に絞りあげます。ひとつできるたびに歓声を上げていました。はたでは、ポップコーンの機械から小気味よいはぜる音、焼き芋が焼ける香ばしい香り食器のガチャつく音がします。



園児は青空の下、非日常のシチュエーションと相まって大興奮です。お年寄り（非健常者もいます）も目を細めます。正直なところ食材の買出しなど前準備や、会場設営など大変ですが園児やお年寄りの笑顔を見ると「高・幼・障のコミュニティ実現」を掲げて活動している当NPOの約束が果たせたと実感できる瞬間で苦労も飛んでしまいます。これからも、継続していきたいとメンバー一同思いを強くしました。 渡邊啓視

船の上で



みんなで記念撮影



茶巾絞り